



長浜 音一 議員

新型コロナウイルス感染症に伴う行政執行体制について

問 教育現場は、長時間勤務による負担増に加え、コロナ禍での感染リスク防止策や休校による授業の遅れを補足するため日々奔走状態にある。正常な学校経営を進めるためには、教育委員会が独自の支援体制強化策を打ち出すべきであるがいかか。

答（教育部長） 既存の ICT 機器の有効的な活用方法や新たに

必要な機器等を精査し、今後の計画に生かしていきたい。

新市建設計画について

問 新市建設計画の中核にあるプロジェクトが延々と進まない。各事業とも、先々の見通しや計画倒れが繰り返されているが、その要因と今後の進め方を問う。

答（市長） 市が傍観者のような立場になっていたため、事業が全く進まなかったのが現実ではないかと考える。現在は地権者や区画整理事業に反対していた方にお会いして、協力をいただく方向で進んでおり、地域のまちづくりを具体的に進めていく方向性が見えてきたところである。

防災について

問 消防団員や活動に理解を示し、心を寄せる姿勢が必要であると考えるが、今後の対応策を問う。

答（総務部長） チラシの勧誘活動だけではなく、現団員の皆さまに誇りを持って活動していただけるよう、さまざまな取り組みを企画していきたい。



《その他の質問》

- ・選挙公約について



増田 悟 議員

駅西の消防署建設について

問 旧古河市は駅西から消防署をなくした。本署の中田地区への引っ越しに、当時議員であった針谷市長も賛成したと聞いている。消火はスピードが全てで、初期消火が最も大切であり、本署や住吉分署から駅西まで、消防車がすぐに到着するのは困難である。そのため、前市長・菅谷氏が広域消防を構成する市町に何度も頭を下げ、駅西の消防署建設を決めた。場所は中央町

広場、駅西で最も文化遺産が集中しており、かつ駅西の中央に位置している。ところが、針谷市長は就任後、駅西消防署建設を自宅に近いガソリンスタンド跡地へ変更した。鴻巣や長谷町、原町、幸町等への消火活動は市長の考えになかったのか。



答（総務部長） 駅西口地区における消防力強化のために常備消防施設を建設する予定地については、当初中央町広場で計画されていたが、地権者と合意に至らなかったことにより、計画を

見直すこととなった。その後、同じ駅西口地区内の未利用地であった本町1丁目のガソリンスタンド跡地等の地権者と交渉を進めた結果、合意に至った。予定している建設地の面積は897.8平米となっており、建物の具体的な絵図を考えたときに、現在の敷地において、建物に消防車と救急車を1台ずつ確保できるよう設計した。古河消防署駅西出張所建設工事においては、消防庁舎面積が403.54平米であり、面積としては十分足りているが、所員の駐車場については、足りるかどうか現在検討している。

《その他の質問》

- ・「華ある古河市」づくりについて